

2023 年度（対象年度：2022） 自己点検・評価シート

基準3 教育研究組織

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301	研究広報サイト Academic Doors での研究者及び研究内容紹介の充実
301	重点強化型研究推進事業の総括と次期支援制度の提案

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。 ポスト重点強化型研究推進事業（次期研究支援制度）の検討が進まず、導入時期が（2022 年度から）2024 年度に延期された。今後、2022 年度中の現行制度の総括を含め、全学研究政策会議（2021 年 7 月 8 日開催）での提案・承認のとおり実施されることが望まれる。【留意点】
--

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の教育理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性 ②研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
301① 学則第1条の目的を達成するため、学則第70条の規定に基づき、大学の付属施設として、4つの附置研究所および人間・科学・宗教総合研究センター（以下、「人間総研センター」という。）ならびに世界仏教文化研究センター（以下、「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している [301a]。 附置研究所は、本学の教育理念・目的に基づき編成された学部・研究科に応じて設置している [301b]。 人間総研センターは、本学が所有する研究資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的として設置している [301c]。

世仏研センターは、仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し、学術研究の遂行を通じて現代世界の切実な諸課題に答え得る指針を提示することによって、社会へ貢献することを目的として設置している [301d]。

これらの研究組織は、それぞれの目的を関係諸規程に定めている。また、その目的に照らし、それぞれの運営委員会等において、毎年度、研究活動の内容および進捗状況の報告に基づき点検・評価している。

附置研究所および人間総研センター・世仏研センターの点検・評価は、次のとおり行っている。

〔附置研究所〕

毎年度、研究活動の内容及び進捗状況の報告にもとづき点検・評価している [301e]。

〔人間総研センター・世仏研センター〕

人間総研センターが所管する重点強化型研究推進事業採択研究プロジェクトについては、原則、各年度において予め定められた評価指標に基づき、事業進捗状況を確認している。2022年度は、12研究プロジェクトの事業進捗状況について評価を行い、うち2022年度で最終年度を迎えた5研究プロジェクトについては、総括としてヒアリングを踏まえた評価を行った [301f,301g,301h]。

世仏研センターにおいても、各研究プロジェクトからの研究活動の内容及び進捗状況の報告に基づき点検・評価を行った [301i]。

また、今後の附置研究所の在り方や新たな研究プロジェクト支援制度について検討を進めるにあたり、「龍谷大学研究活動に関する指針」及び「研究支援の方針」と並ぶ全学的な研究活動の使命のひとつとして、「附置研究所及び人間総研センターにかかる編成原理」を第2回研究企画委員会（2022年12月15日開催）にて提案し承認された [301j,301k]。

重点強化型研究推進事業の各研究センター長に現行制度の成果及び課題点についてヒアリングを行ったうえで、研究企画委員会のもとに設置されたワーキンググループにおいて次期支援制度の具体的内容について検討を行った。その結果、第3回研究企画委員会（2023年3月28日開催）にて本提案が承認された。今後は、2023度前期中に全学研究政策会議を経て、部局長会にて審議する予定である [301l]。

301②

人間総研センターが所管する重点強化型研究推進事業採択研究センターをはじめとして12研究プロジェクトの事業を推進した [301a]。また、2023年度重点強化型研究推進事業を支援期間1年間として募集、3件を選定した。2022年度は、重点強化型研究推進事業採択研究センターの研究成果等を掲載した人間総研センター研究紀要「Ryukoku Journal of Peace and Sustainability」第3号を刊行した。本紀要は、国際水準のジャーナルとなることを目標とし、英文による執筆を推奨するとともに学内外の有識者による査読を行っている。また、国際性を担保するため国際的な論文識別子であるDOI (Digital Objects Identifier) を付与し、オンラインジャーナルとして広く公開した [301m]。また、同紀要刊行に合わせて、掲載論文等の内容や研究プロジェクトの紹介等、研究センター相互の取り組みを共有する研究交流会を対面で開催し、今後の研究センター間の連携の可能性についても議論した。

また、研究広報ウェブサイト「Academic Doors」を開設し、本学研究者の特色ある研究内容を分かりやすく紹介している [301o]。

世仏研センターは、第5次長期計画の研究分野における新たな展開として、本学が積み重ねてきた仏教研究の実績を基礎にさらに発展的かつ国際的な研究拠点を形成することを目的として設立された [301n]。世仏研センターは、3つの部門（基礎研究部門、応用研究部門、国際研究部門）を軸に研究を推進している。2022年度は、基礎研究部門における研究成果の国際発信及び海外の大学とのネットワーク構築を目的とし、基礎研究部門内に国際研究部門及び応用研究部門と連携・協働して実施する研究部門横断型研究プロジェクトを設置、既存の研究プロジェクトとは位置づけが異なることを確認した [301p,301q,301r]。

以上のことから大学の理念・目的に照らして、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であると認識している。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
301	国際ジャーナルを念頭に置いた研究紀要の刊行（査読付、電子化、英文執筆推奨、DOI付与）
301	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」の充実
課題事項《箇条書き》*伸長すべき点、改善すべき点	
301	現行制度「重点強化型研究推進事業」の総括と次期支援制度の実施、募集

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
・研究広報サイト「Academic Doors」での研究者及び研究内容紹介の充実 当初の計画通り、年間10人の教員を取材し、同サイトにおいて研究内容を紹介し、10,260回のアクセスを得た。[301o]

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301	研究広報サイト Academic Doors での研究者及び研究内容紹介の充実
301	新たな研究プロジェクト支援制度の整備について

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	a	研究関連組織図
301	b	各附置研究所の規程
301	c	人間・科学・宗教総合研究センター規程
301	d	世界仏教文化研究センター規程
301	e	各附置研究所の研究プロジェクトの評価要項
301	f	2022(令和4)年度第2回研究評価委員会議事録
301	g	重点強化型研究推進事業の評価結果について_提案資料
301	h	重点強化型研究推進事業進捗状況の評価方法について
301	i	世仏研センターの研究プロジェクトの評価要項
301	j	2022年度第2回研究企画委員会議事録
301	k	附置研究所及び人間・科学・宗教総合研究センターの編成原理
301	l	2022年度第3回研究企画委員会議事録
301	m	人間総研センター研究紀要 Ryukoku Journal of Peace and Sustainability
301	n	2014年度第15回評議会(2015/2/26開催)資料(抜粋)
301	o	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」 https://academic-doors-ryukoku.jp/
301	p	2022年度第15回世界仏教文化研究センター運営委員会(E-mail審議)議事録
301	q	2023年度世界仏教文化研究センター基礎研究部門における横断型研究プログラムの設置について_提案資料
301	r	2023年度世界仏教文化研究センター研究一覧

II. 評価結果

総評
大学の附属施設として、4つの附置研究所、人間・科学・宗教総合研究センター（以下「人間総研センター」という。）、世界仏教文化研究センター（以下「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している。附置研究所、人間総研センター、世仏研センターは、毎年度、それぞれの研究活動及び進捗状況を点検・評価している。2022年度は、人間総研センターの12研究プロジェクトの事業進捗状況について評価を行った。

世仏研センターは、2022年度は基礎研究部門における研究成果の国際発信及び海外の大学とのネットワーク構築を目的とし、基礎研究部門内に国際研究部門及び応用研究部門と連携・協働して実施する研究部門横断型研究プロジェクトを設置、既存の研究プロジェクトとは位置づけが異なることを確認した。

また、今後の附置研究所の在り方や新たな研究プロジェクト支援制度について検討を進めるにあたり、「龍谷大学研究活動に関する指針」及び「研究支援の方針」と並ぶ全学的な研究活動の使命のひとつとして、「附置研究所及び人間総研センターにかかる編成原理」を第2回研究企画委員会（2022年12月15日開催）にて提案し承認を得ている。

重点強化型研究推進事業の各研究センター長に現行制度の成果及び課題点についてヒアリングを行ったうえで、研究企画委員会のもとに設置されたワーキンググループにおいて次期支援制度の具体的内容について検討を行い、その結果、第3回研究企画委員会（2023年3月28日開催）にて本提案が承認されている。

また2022年度は、人間総研センターは研究成果等を収載した研究紀要「Ryukoku Journal of Peace and Sustainability」第3号を刊行している。同紀要は国際性を担保するため国際的な論文識別子であるDOI（Digital Objects Identifier）を付与し、オンラインジャーナルとして広く公開している。

併せて、研究広報ウェブサイト「Academic Doors」を開設し、本学研究者の特色ある研究内容を紹介している。同サイトが本学の研究内容に関する情報発信ページとして今後も引き続き機能するよう定期的な更新が期待される。

以上、大学の理念・目的に照らして、附置研究所、センターその他の組織は適切に設置し運営していると評価できる。

長所・特色《箇条書き》

・研究広報サイト「Academic Doors」を開設し、本学研究者及び研究内容を紹介している。計画通り、年間10人の教員を取材し、同サイトにおいて研究内容を紹介し、10,260回のアクセスを得ている。

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

2023 年度（対象年度：2022） 自己点検・評価シート

基準3	教育研究組織
-----	--------

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	「教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上の指針」および「龍谷大学アセスメントプラン」に基づく教学マネジメントサイクルの確立
301①	「3 つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な見直し

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし	

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の教育理念・目的と学部(学科または課程)構成及び研究科(研究科または専攻)構成との適合性 ②教職課程を全学的に実施する教職センターの適切性 ③教育組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
301① 学部、研究科の設置に際しては、「建学の精神」の具現化と「龍谷大学の教育理念・目的」[301a]との適合という観点に基づき、設置の必要性について審議が重ねられ、最終的に評議会で承認する体制をとっている。また、「建学の精神」と「龍谷大学の教育理念・目的」に基づいて、各学部、研究科の理念・目的が策定され、それらは「龍谷大学学則」「龍谷大学大学院学則」に定められている [301b]。

教育組織の編制は、「龍谷大学の教育理念・目的」と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を明示した「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」[301c]、「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）[301d]、「教育研究等に係る施設設備に関する整備方針」[301e]に基づき行われている。

なお、「3つの方針一体的見直し作業部会」（2019年度からは「3つの方針検証委員会」）において、3つの方針を軸とする教育の質保証の仕組みを整備することについて検討を行い、2019年度入学生より「学位授与の方針」（DP）及び「教育課程編成・実施の方針」（CP）を適用したことに加えて、これらのDP及びCPとの統合が取れるよう、「入学者受入れの方針」（AP）の見直しを実施した。

2022年度においても「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」について、全学的見地からの確認及び一部修正等を行った[301f]。

301② 教職センターについては、「教員養成機能」と「交流・支援機能」を有する組織として、教職に携わる学生の支援を行っている。本学の教員養成の目標としては、「教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画」において、本学の建学の精神や理念・目的のもと、その実現のために教員の養成を実践することとして目標を定めており、大学の教育理念・目的と連関している[301g]。また、教職センター規定においては、「各学部、大学院各研究科及び短期大学部に設置する、教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程及び教職に係る事業の全学的運営をはかること」を目的として定めている[301h]。

301③ 学部、研究科では、全学教学政策会議、大学院教学会議、教学会議、教養教育会議、学修支援・教育開発センター会議、入試委員会、全学グローバル教育推進会議、全学キャリア会議等に委員を選出し、それら会議を通じて、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等についての全学的課題に対する審議や認識の共有等を図っている。

また、2022年度においては、紛争下におかれているウクライナに対して、ウクライナ人道支援として人道支援募金活動や、留学生の受入を行った[301i]。

以上のことから、各教育研究組織等の設置状況については、適切であることとして評価する。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」等の策定による教育組織の編制原理の明確化。
項目 No.	
課題事項《箇条書き》*伸長すべき点、改善すべき点	
301①	「3つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な確認と見直し
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
301①	各学部から報告された「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」について、3つの方針検証委員会にて全学的見地からの確認を行った。

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	「3つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な確認と見直し

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	a	龍谷大学の教育理念・目的【ウェブ】
301	b	龍谷大学学則/龍谷大学大学院学則
301	c	「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」【ウェブ】
301	d	「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」【ウェブ】
301	e	教育研究等に係る施設設備に関する整備方針
301	f	2022年度第1回～第3回 3つの方針検証委員会 議事録
301	g	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること【ウェブ】
301	h	教職センター規程
301	i	ウクライナ人道支援【ウェブ】

II. 評価結果

総評
<p>301①③ 大学の教育理念・目的と学部及び研究科の設置状況ならびに大学を取り巻く外部環境等への配慮については適切に行っている。</p> <p>301② 教職センターは、本学の建学の精神を基盤においた教員養成を目標に掲げ、学部、研究科及び短期大学部に設置する教職課程の編成・実施ならびに教職に係る事業の全学的運営を行っている。また、目標達成に向けて外部環境の変化や社会的要請に配慮しながら、教職課程と組織体制の点検と改善を行い、地域や学校との連携に取り組んでいる。さらに、2022年度から、本センターにおいて自己点検・評価委員会を設置し、組織の自己点検・評価ならびに教員活動自己点検結果の活用を開始した。</p> <p>総じて、大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、教職センター、その他の組織の設置状況は適切である。</p>
長所・特色《箇条書き》
なし
課題事項《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・「3つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な確認と見直しをする。【留意点】